

ありのままに生きていくということ

御津北部小・6 尾方 華恵

去年、東田直樹さんの「自閉症の僕が跳びはねる理由」を読んで、自閉症の人の行動には理由があることが分かりました。自閉症のことを、もっと知りたいと思いこの本を選びました。

この本を書いた東田さんは、重度の自閉症で、自分の気持ちを口に出して伝えることができませんが、パソコンや、文字ばんでコミュニケーションができました。この本には十八才のころの東田さんがブログに書いた日々感じたことや考えたことが書かれています。

本を読んでいて、心に残ったことが2つあります。一つ目は、何度と同じ質問をするのは、答えを忘れるからではなく、何度も聞きたいからだといいところ。東田さんは答えを知りたいのではなく、聞くことでその言葉からイメージが広がるのが楽しくて何度も聞きます。私の弟も、自閉スペクトラム症で何度も同じことを聞いてきます。私は、「何回も伝えているのに、どうしてまた聞くのかな？忘れちゃうのかな。」と思っていました。もしかしたら弟も、その言葉からつながるいろいろなことを想像して楽しんでいたのかもしれない。そう思うと、弟の何度もしてくる質問に答えてあげたいなと思います。弟は、「あと〇回で終しまい。」と伝えると、物事の終わりのタイミングが分かるので、回数を決めて答えてあげたいと思います。

もう一つ心に残ったのは、「告知」のページの『たとえ障がいがあ

っても決して不幸にはならない。』『自分にできることを一生けん命にやれば、これからも生きていける。』という言葉です。私は弟に発達障がいがあると両親から聞かされた時、とてもおどろきました。

弟はこの先どうなっていくんだろうと大好きな弟を思うと、不安な気持ちになったのです。でも父と母は、「障がいがあってもなくてもありのままの自分で一生けん命生きて幸せになつていこう。君たちのしよう来が楽しみでしかたがないよ。」と、笑っています。弟だけでなく私や兄たちにも同じ言葉をかけてくれます。『ありのままの自分で生きていく。自分にできることを一生けん命やつて幸せになる。』私はこの考えが好きです。

両親に、もう弟に発達障がいがあることを伝えたのか聞くとまだ伝えていないそうです。いつか両親が弟に伝える日が来ても、『ありのままの君が素敵なんだ。』という家族の気持ちで弟へ伝わってほしい、大丈夫だと思いました。

私には夢があります。それは弟が通っていたりよう育園で働くことです。発達にでこぼこがある子たちに『ありのままの君が素敵なんだ。』と思ってもらえる、発達障がいの子のお手伝いをしたいです。